

1. これまでの動向

平成19年

- ・ 4月16日 WHOによるICD-11への改訂作業開始記者会見
改訂運営会議メンバーと日本側専門家等との意見交換会
- ・ 4月17日～
18日 第1回改訂運営会議（RSG）（別紙1参照）
- ・ 6月29日 第3回ICD専門委員会
- ・ 7月31日 ICD改訂に関する内科分野に係る専門部会（TAG）及びワーキンググループ（WG）対応の国際WG協力員説明会（※）
- ・ 8月15日～
16日 改訂運営会議（RSG）の電話会議
（計2回）
- ・ 9月10日～
11日 第2回アジア・パシフィックネットワーク会議（別紙2参照）

（※）当日出席困難だった国際WG協力員等に対しては、適宜事務局より説明

2. 今後の予定

- ・ 10月 5日 国際WG協力員説明会
- ・ 10日 第12回社会保障審議会統計分科会
- ・ 25日～
26日 死因分類改正グループ（MRG）会議
- ・ 26日～
27日 生活機能分類グループ（FDRG）会議
- ・ 27日 疾病分類グループ（MbRG）会議
ターミノロジーグループ（TRG）会議
- ・ 28日～
11月 3日 WHO-FICネットワーク会議2007（別紙3参照）

枠 WHO側の取組

第1回WHO-F I C改訂運営会議について

1. 改訂運営会議の組織体制

(1) 改訂運営会議: R S G (Revision Steering Group)

分類に関するWHO-F I Cネットワークの恒常的委員会である分類改正改訂委員会 (URC) の下に、I C D改訂作業の監督機関として設置された。

R S Gの主な委任事項；

- ・ 改訂プロセスを監督し、分野別専門部会間の連携の調整・助言を行う。
- ・ I C Dの用途について明らかにし、改訂プロセスを通じてユーザーのニーズに向き合うようにする。
- ・ 分類法及びオントロジーに関する基本原則を明らかにする。
- ・ 問題の解決に向けた提案を行い、必要に応じてフィールドテストを随時行うための方法を考える。
- ・ I C D-10からI C D-11への移行のための計画・ツールを立案及び開発する。

(2) 分野別専門部会: T A G (Topical Advisory Group)

R S Gの下に設置される分野別の専門部会。現在、精神、外因、腫瘍、希な疾患、内科の5部会が設置されている。日本は、内科部会の部会長を務める。

(3) ワーキンググループ: W G

必要に応じ、各T A Gの下に設置され、個別具体的な作業を行う。

2. 第1回改訂運営会議関連行事の概要

(1) WHOによるI C D改訂作業開始記者会見

- ・ 日時：平成19年4月16日（月）
- ・ 場所：東京、フォーリンプレスセンター
- ・ 内容：国内外の報道陣に対して、WHO担当官が、「WHOは、加盟各国の協力を得ながら、本日から2015年（平成27年）を目途に、I C D-10をI C D-11に改訂する作業を開始する。」との公式発表を行った。WHO本部か

らも全世界に同時公表された。

なお、WHOの事務局長から、全加盟国政府に、作業開始を告げ協力を依頼する旨の公式文書が発せられている。

(2) 改訂運営会議のメンバーと日本側専門家等との意見交換会

- ・日時：平成19年4月16日（月）
- ・場所：東京、厚生労働省
- ・内容：改訂運営会議のメンバーと、疾病、傷害及び死因分類専門委員会委員等による情報共有及び意見交換が行われた。

(3) 第1回改訂運営会議

- ・日時：平成19年4月17日（火）～18日（水）
- ・場所：小田原、ヒルトンホテル
- ・内容：改訂作業の全般的な計画を議論し承認した。

* ICD-11に至る改訂作業は次の3段階で進める。

- ① 分類に関する科学的、臨床的、公衆衛生的エビデンスの体系的な点検を行う。
- ② ICD-11の草案を起草し、草案のフィールドテストを行う。
- ③ 標準的な医療用語との意味のある関連付けを行い、コミュニケーション、データ処理の標準化、研究を円滑にする。

* ICDの形式とICDの死亡・罹患報告への活用は維持される。

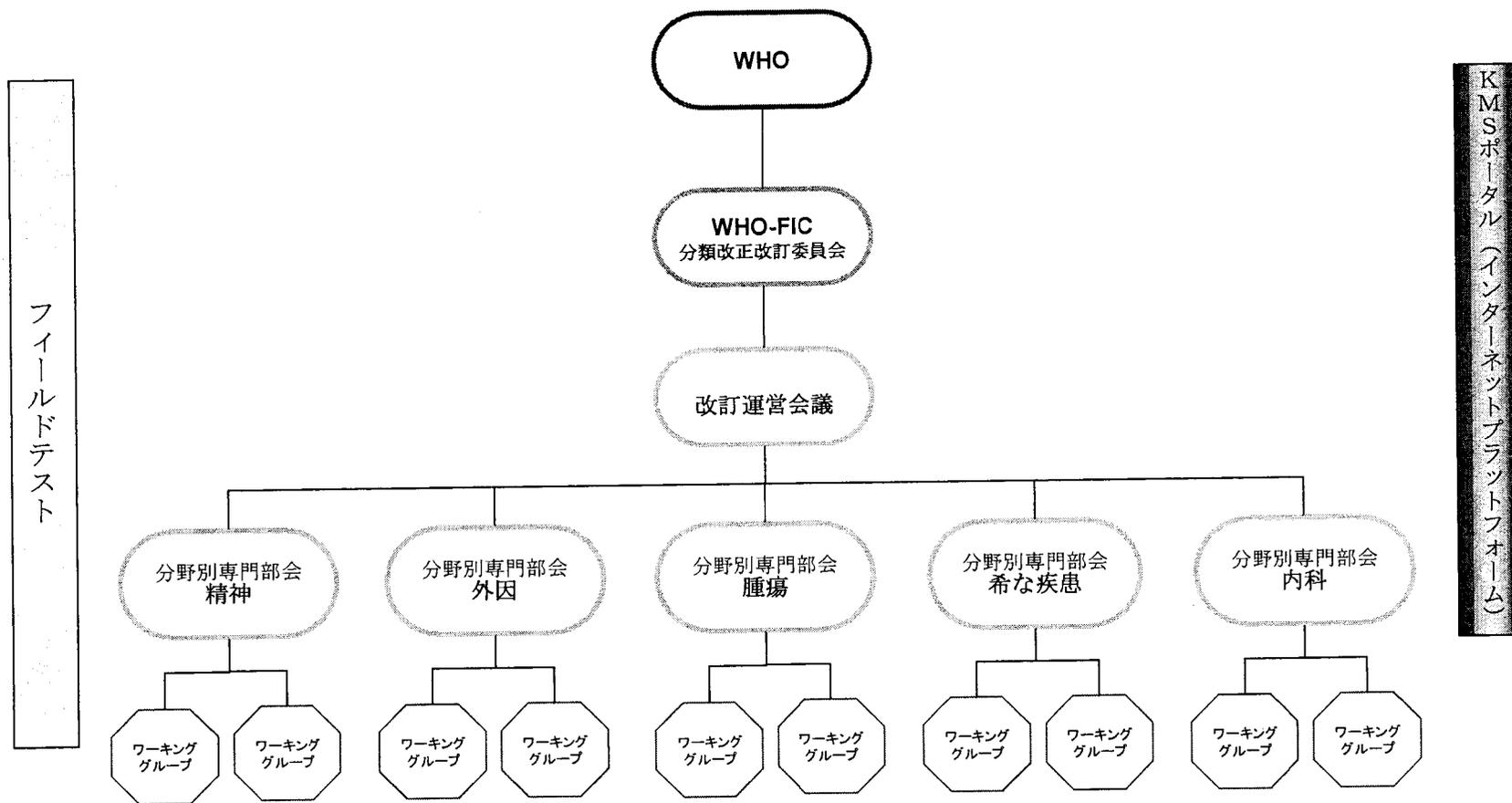
* ユーザーのニーズに対応するために改訂版を相互に関連する三つのフォーマット（プライマリケア、臨床ケア、研究）で提供する。

* 分類の構築にはオントロジーツールを活用し、このツールは徴候や症状の組み合わせ、重症度、経過、遺伝情報やその他の情報など様々な領域をカバーする。

* 国際生活機能分類（ICF）等のWHOの他の分類および各国のICD修正版も検討し、ICDの内容の向上を図るとともに分類間の整合性を高める。

* 改訂作業においては、オープンデータベースとして構築したプラットフォーム等の分散型ウェブツールを活用して提案、議論、エビデンスを突き合わせ、フィールドテストを行い、多数の関係者による改訂作業への幅広い参加を可能にする。

ICD-11に向けたICD改訂対応組織図(WHO)



※ 分野別専門部会の分野は、今後増える見込み
 ※※ ワーキンググループは必要に応じて設置

WHO-FICネットワーク組織図



	国際分類ファミリー 拡張委員会 Family Development Committee (FDC)	普及委員会 Implementation Committee (IC)	教育委員会 Education Committee (EC)	分類改正改訂委員会 Updating and Revision Committee (URC)	電子媒体委員会 Electronic Tools Committee (ETC)
死因分類改正グループ Mortality Reference Group (MRG)					
疾病分類グループ Morbidity Reference Group (MbRG)					
生活機能分類グループ Functioning and Disability Reference Group (FDRG)					
ターミノロジーグループ Terminology Reference Group (TRG)					

第2回 WHO-F I C アジア・パシフィックネットワーク会議 2007 京都 概要

開催期間：平成19年9月10日（月）～11日（火）

会 場：ぱ・る・るプラザ京都

参 加：オーストラリア、カンボジア、インド、インドネシア、韓国、ラオス、マレーシア、モンゴル、パプアニューギニア、シンガポール、タイ、ベトナム、日本

概 要：

- アジア・太平洋地域の国々における国際疾病分類の適切な普及を目指す実務者レベルの会合として、昨年のチュニスの会議に引き続き第2回会議が京都で開催された。
- 第1日目（10日）には、WHOやJ I C A等の普及活動に関して、またマレーシアとインドネシアの両国から普及の現状について報告があり、普及を促進するための方策が討議された。
- 第2日目（11日）には、前日の討議に基づいて、普及の方策に関する発表が行われ、活動の評価手法、人材養成、財源の確保などが話し合われた。
- アジア・パシフィックネットワークにおいて参加国間で普及活動の経験を共有することの重要性が確認された。今後活動を展開するための人材、財源、持続可能な方法等について各国間で情報交換が行われた。タイとオーストラリアは教育手法に関する発表を行った。
- 今後の活動として、アジア・パシフィックネットワークのもとに死亡統計、疾病統計、情報システム各々に関するWGが組織され、参加各国の普及活動について、更に検討していくことが決定された。
- 次回アジア・パシフィックネットワーク会議の予定が決定された（場所は日本を予定）。
- 首藤WHO-F I C普及委員会共同議長がキム氏（韓国カトリック大学准教授）と共に次回会議の議長となることが決定された。

WHO-F I Cネットワーク会議 2007 トリエステ会議開催について (概要)
(WHO Family of International Classifications Network Meeting 2007 in Trieste, Italy)

- 開催期間： 平成19年10月28日(日)～11月3日(土)
会 場： the Stazione Marittima
開 催： WHO、WHO-F I Cイタリア協力センター、
フリウリ=ヴェネチア=ジュリア州政府共催
参 加： WHO、協力センター、オブザーバー 等
世界10数ヶ国 参加者数約100名程度

会議主要議題：

10月28日(日)

- WHO-F I Cネットワーク企画実行委員会
- WHO代表部及び各国代表者会議

10月29日(月) - 11月2日(金)

- WHO代表部及び各国代表者会議報告
- 各委員会及びワークグループの重点項目討議
 - ・ 教育委員会 (E C)
 - ・ 電子媒体委員会 (E T C)
 - ・ 国際分類ファミリー拡張委員会 (F D C)
 - ・ 普及委員会 (I C)
 - ・ 分類改正改訂委員会 (U R C)
 - ・ 死因分類改正グループ (M R G)
 - ・ 疾病分類グループ (M b R G)
 - ・ ターミノロジーグループ (T R G)
 - ・ 生活機能グループ (F D R G)
- 改訂運営会議 (R S G)
- I C D改訂に関するセッション
- I C Fに関するセッション
- ポスター発表
- ビジネスプラン及び年間計画の検討

11月3日(土)

- 会議報告書草案の採択
- 会議の評価
- 2008年、2009年会議の検討

参考：<http://www.who.int/classifications/network/meeting2007/en/index.html>
<https://crs.sanita.fvg.it/WHO/welcome.aspx>